新病院建設基本構想

２０１４年度版（案）

社会医療法人社団健生会

① 基本設計策定の経過

社会医療法人社団健生会の第５次長期計画で、立川相互病院の移転新築をめざすことを２０１０年５月の社員総会で決定しました。

２０１０年10月に基本構想委員会のもと新病院の医療構想のたき台がつくられました。２０１３年４月新病院の土地が確保され、いよいよ具体化する論議が開始されました。２０１２年８月成立の「社会保障制度改革国民会議の答申」などを踏まえ、基本設計や法人医師政策づくりに役立てるため、その後２０１３年版として構想をまとめ、情勢の変化への対応として２０１４年度版を提案しました。

今回の基本構想（案）は理事会や職員、三多摩健康友の会などでの議論を経た上で秋に開催される臨時社員総会で決定される予定です。

4床室　イメージ

総合受付　イメージ

病院棟　イメージ

② 新病院建設の意義は、以下の3点です

① 少子超高齢社会、貧困と格差が広がる中、無差別平等の医療を実践する基幹的な急性期病院として発展させます。

② 地域の医療・福祉の連携、ネットワークを強め、憲法25条の立場にたったあるべき「地域包括ケア」づくりをめざします。

③ 民医連、地域医療を担う医師、看護師など専門職養成をいっそうすすめ、教育・交流の拠点をめざします。

③ 立川相互病院の歴史

① １９５１年に地域住民の運動から無差別・平等の医療を理念に立川診療所を開設。１９７３年から新卒医師の受け入れ・研修を開始。１９８２年現在地に２３２床の立川相互病院を開院し、１９８０年代、救急の中心的役割を果たし大きな信頼を築きました。

② １９９０年３４５床に増床。１９９８年医療事故、２０００年には医師確保、介護保険対応が重要課題となりました。

③ ２００２年総合診療科を中心とした研修改善をすすめ、あきしま相互病院・ふれあいクリニック、回復期病棟転換など医療経営構造の改善をすすめました。医師養成が前進し、社会保障切り下げの中でも経営的に安定させました。

④ 立川相互病院は

i）民医連の無差別平等、働く人の立場にたった医療の推進

ii）地域医療を担う医師など専門職の養成・研修に取り組む

iii）医療、介護、福祉の複合体として地域にネットワークをひろげ、救急や在宅含め地域に根ざした診療を行っています。

④ 新病院建設理念

① **地域連携を強め地域支援病院をめざします**

かかりつけ医との紹介・逆紹介を大きく増やし、地域の医療、福祉、行政と「顔の見える連携」ネットワークを強め、患者が地域で医療を継続できるように支援します。サポートセンターを充実させ地域との橋渡しを担います。ふれあいクリニックや現病院を同日受診する場合は事業所間の巡回バスの運行で利便性を確保します。

② **無差別平等の理念を大切にします**

差額ベッド料はいただきません。無料低額診療を継続します。立川市や町会、三多摩健康友の会などと協力し社会的孤立や貧困に対応して地域づくりに取り組みます。

③ **急性期病院としての機能性、安全性を高めます**

ＥＲを拡張し24時間救急診療を充実させ、専門医療と総合診療機能の充実に引き続き取り組みます。

④ **安全・安心の治療環境を作ります**

病棟は４床室を基本とし、１床あたり４・６㎡を８㎡まで拡張するなど療養環境を改善します。個室率は、現在の10％から20％（一般病棟は一病棟あたり23・４％）とします。各病棟に食堂・デイルームを設置します。また、わかりやすく温かみのあるデザインとします。

⑤ **教育研修機能の充実に取り組みます**

一病棟47床、７：１看護、２交代、４人夜勤体制を基本とします。教育研修、面談・カンファレンスなどの十分な場所を確保します。電子カルテで診療所・病院間のネットワークで情報の共有化を図ります。

⑥ **経営の持続可能性を追求します**

機能に見合う職員体制と収益確保、耐久性35年などを考慮した設計、ふれあいクリニックなどとの適切な役割分担を行います。

⑦ **災害に強く、災害時に十分な医療機能を発揮する構造とします。耐震構造、非常時の水・電力を確保します**

５ 新病院の構想と設備

新病院の名称は「立川相互病院」を継承し、２０１６年12月開院をめざします。

① ２９１床の急性期病院として救急と手術や処置を要する専門医療に特化し発展させます。
一般病床47床×５病棟、産婦人科病棟30床、ＩＣＵ10床、ＨＣＵ16床

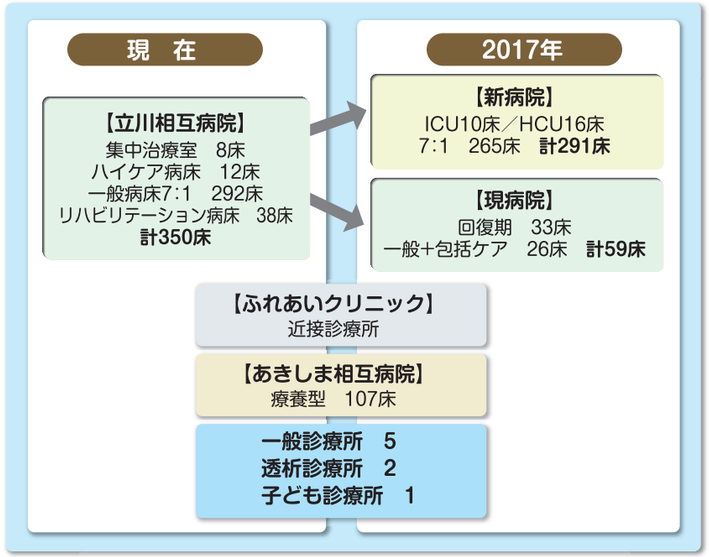
② 手術室６室、血管造影２台、ＣＴ１台、ＭＲＩ１台、ＲＩ１台
外来・救急外来、紹介外来、産婦人科、眼科
リハビリテーション室、臨床検査室、細菌検査室、病理検査室など
サポートセンター（患者の治療・療養の相談・援助、開業医・施設との連携）
職員研修・地域交流スペース、職員食堂、コンビニエンス店舗

③ 延べ床面積は約５７００坪、薬局法人施設の利用でおよそ６０００坪の広さとします。

④ 手術件数は２５００～３５００件、全身麻酔手術１５００～２０００件に対応できるようにします。

⑤ 医師体制は引き続き充実を図ります。神経内科、病理診断科、麻酔科、皮膚科、眼科、放射線科、脳神経外科、精神科の複数常勤化など

⑥ ふれあいクリニックと現病院と電子カルテによる診療情報の共有化や患者移送、管理運営など一体的な運営をめざします。



６ 現病院の構想と設備

現病院は病院名を変更し２０１７年１月現在地での開院をめざします。施設の総合的な利用は、立川圏域構想委員会で検討をすすめます。

① 59病床を設置し、新病院などと連携し急性期後のリハビリテーションを中心とした診療で在宅復帰を支援し、地域の在宅療養と介護を支える拠点として発展させます。

② 外来は泌尿器科・精神科・リハビリテーション及び維持透析、在宅訪問診療を行います。

③ ＣＴ１台、ＭＲＩ１台、内視鏡検査、臨床検査機能を維持します。

④ 新病院との間を結ぶシャトルバスを運行させるなど、患者の皆さんの利便性を確保します。

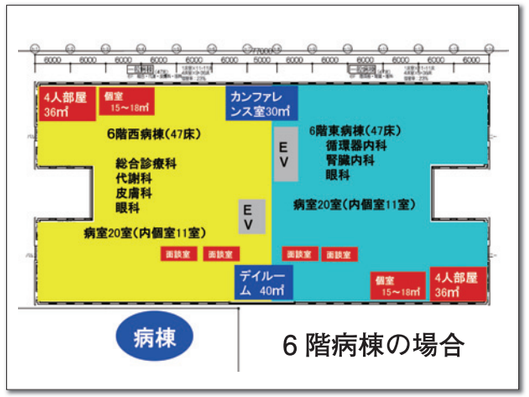
７ ふれあいクリニック、子ども診療所

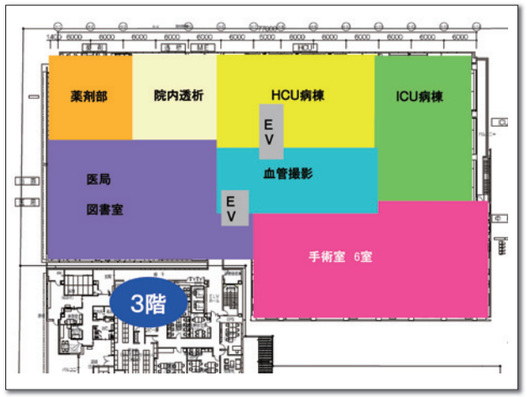
① ふれあいクリニックと子ども診療所は、現在地で、総合性と専門性を持つ慢性疾患を中心としたクリニックとして外来診療を引き続き継続します。

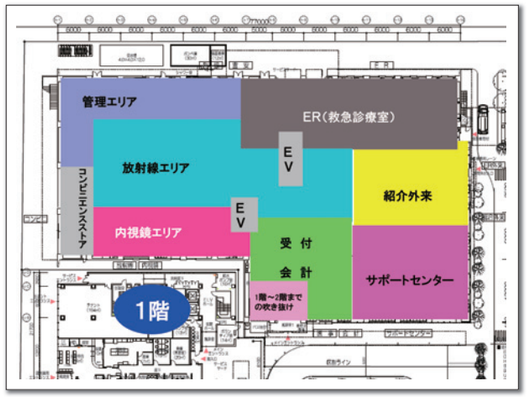
② ふれあいクリニック健康管理センターは幅広く質の高い健診を行い、健康づくりを支援します。

おわりに

新病院建設は２０１４年10月着工、２０１６年12月開院予定で準備をすすめています。
基本構想は新病院の計画ですが、現病院で取り組める内容は実践を始めたいと考えております。
皆様のご協力をお願いいたします。







病棟

①病床は４床室を基本とし、１床当たり８㎡（現在4.6㎡）とします

②一般病棟の病室は20室、そのうち個室は11室とします。差額ベッド料はいただきません

③食堂・デイルームは40㎡に拡張し面会などで利用します

④教育・研修のための面談室・カンファレンス室を拡張します

3階

①集中治療を行うための病床として、ICU・HCU病棟を設置します

②心臓カテーテル・血管造影検査室を2室設置します

③手術の増加のため手術室は6室とします（現在4室）

2階

①産婦人科・眼科外来と検査機能、患者図書コーナーを設置します

②薬局棟の2階に誰でも利用できるレストラン、240人ほど収容可能な講堂を設置します

1階

①救急診療の充実のためのスペースを拡張します

②診断・治療のための医療機器（CT、MRI、RI、内視鏡、血管造影など）を整備します

③患者の相談窓口、医療機関・施設との連携のための「サポートセンター」を拡張します

④患者、職員の利便性の確保のため、24時間営業のコンビニを誘致します